「備後鞆之図」（部分）を一部着色、デザイン
（福山市鞆の浦歴史民俗資料館所蔵）

「鞆浦図并韓使応接図対潮楼石摺」屏風（部分）
（福山市鞆の浦歴史民俗資料館所蔵）

福禅寺対潮楼（国史跡）

鞆の浦と朝鮮通信使

도모노우라와
조선통신사

国際連合教育
科学文化機関
（ユネスコ）

朝鮮通信使に関する記録-17世紀～19世紀の
日韓間の平和構築と文化交流の歴史
2017年国際登録簿に記載
世界記憶遺産

ユネスコ「世界の記憶」
朝鮮通信使に関する記録

朝鮮通信使とは

朝鮮通信使は、室町時代から江戸時代にかけて朝鮮国が日本に派遣した外交使節団で、足利将軍や徳川将軍の代替わりの祝賀、若しくは両国間の外交課題の解決のため、朝鮮国王から将軍宛ての国書を託されて来日しました。

豊臣秀吉の朝鮮出兵で一旦途絶えてしまいますが、徳川家康の命を受けた対馬藩による粘り強い交渉の末１６０７年に派遣が再開し、これにより国交が回復します。以来、江戸時代の約２６０年間日本と朝鮮国は隣国として戦争のない平和な時代を過ごしたのです。

江戸時代に日本へ１２回派遣された朝鮮通信使は、両国の平和を象徴する使節団であるとともに、学術、芸術、産業及び文化などの様々な分野において活発な交流を行い、両国の対等で友好的な外交関係を維持しました。

韓使聘禮図（部分）
（福禅寺所蔵）

朝鮮通信使の旅 ―往復約4,500㎞の文化交流と苦難の道

江戸時代の朝鮮通信使は、最高責任者の正使、副使、従事官の三使以下、総員４００人～５００人前後の大使節団でした。漢城（現在のソウル）から釜山（プサン）までは陸路を辿り、釜山から外洋航行用の通信使船６隻に分乗し、対馬藩船に先導されて対馬を目指しました。その後、下関から波の穏やかな瀬戸内海に入り、蒲刈（呉市）、鞆浦、牛窓を通り、大坂に至りました。その後、淀川を川御座船で京都まで上り、そこから陸路で江戸まで向かいました。

旅は往復約4,５００㎞、１年近くに及び、道中では両国の文化交流が活発に行われ、その足跡を今も各地に残しています。しかし、その一方で海難や不慣れな土地で発病する者もおり、苦難の道中であったことも忘れてはいけません。

對州信使行列図（部分）
（福山市鞆の浦歴史民俗資料館所蔵）

鞆の浦と朝鮮通信使

江戸時代、朝鮮通信使は計１２回の来日のうち、最後となった１８１１年を除き、船中泊なども含め１１回鞆の浦へ寄港しています。古来より「潮待ちの港」として発展した鞆の浦は、江戸時代には特に商業港として繁栄し、海駅としても重要な位置を占めていました。

寄港の際には、福禅寺が朝鮮通信使高官三使（正使、副使、従事官）の常宿として使用され、そのほかの多くの寺院も通信使の宿として用いられました。

当時の鞆の浦は、朝鮮通信使だけではなく、琉球使節やオランダ商館長なども江戸の行き帰りに訪れており、「海」を通じて様々な人々を迎え入れた「国際都市」だったといえます。

江戸時代の朝鮮通信使一覧

回	使行年	通信使派遣理由	人員	接待家等
1	1607年	国交回復、回答兼刷還使　江戸	504	福島正則　船中泊
2	1617年	京都聘礼、回答兼刷還使　伏見城	428	福島正則　船中泊
3	1624年	徳川家光襲職　回答兼刷還使　江戸	460	福山藩主水野勝成　船中泊
4	1636年	泰平の賀　江戸	478	福山藩主水野勝成　観音寺に宿泊
5	1643年	徳川家綱誕生　江戸	477	福山藩主水野勝俊　福禅寺に宿泊
6	1655年	徳川家綱襲職　江戸	485	福山藩主水野勝貞　福禅寺に宿泊
7	1682年	徳川綱吉襲職　江戸	473	福山藩主水野勝種
8	1711年	徳川家宣襲職　江戸	500	福山藩主阿部正邦
9	1719年	徳川吉宗襲職　江戸	475	福山藩主阿部正福
10	1748年	徳川家重襲職　江戸	475	伊予宇和島藩
11	1764年	徳川家治襲職　江戸	477	豊後岡藩
12	1811年	徳川家斉襲職　対馬	328	対馬まで

福山藩のおもてなし

朝鮮通信使の接待は福山藩をあげて行われ、食事の材料を藩内の村々から集め、料理人や給仕人など約1,０００人を動員したほどでした。

また、船着き場から福禅寺までは約３,５００枚もの筵（むしろ）などが敷き詰められ、５歩ごとに竿に大提灯をかけるなど、盛大に歓待しました。

福禅寺では様々な文化交流が行われ、１７１１年には朝鮮通信使上官８人が客殿（対潮楼）から見た瀬戸内の多島美を称賛し、従事官の李邦彦（イバンオン）は「日東第一形勝」の書を残しています。また、１７４８年には正使の洪啓禧（ホンゲヒ）が客殿を「対潮楼」と命名し、子の洪景海（ホンキョンヘ）がその書を残しています。

このほかにも福禅寺には、数多くの資料が残されており、まさに朝鮮通信使の博物館といえます。また、鞆の浦には、朝鮮通信使が訪れた当時の町並みや景観もよく残されています。

「鞆浦図并韓使応接図対潮楼石摺」屏風（部分）
（福山市鞆の浦歴史民俗資料館所蔵）

ユネスコ「世界の記憶」とは

ユネスコ「世界の記憶」は、世界記憶遺産とも呼ばれ、ユネスコ(国連教育科学文化機関)の三大遺産事業(他に遺跡や建造物などの文化遺産並びに自然遺産を保護する「世界遺産」、無形の文化財を保護する「無形文化遺産」がある)の一つで、危機に瀕した歴史的な記録物を最新のデジタル技術を駆使して保存し、研究者や一般人に広く公開することを目的として１９９２年から始められました。

古文書や書物、楽譜、絵画、フィルムなどの記録資料が対象となり、日本では「御堂関白記」や「慶長遣欧使節関係資料」など７件(２０２０年３月３１日現在)が登録されています。

朝鮮通信使に関する記録

朝鮮通信使に関する記録(１１１件３３３点)は、福山市が加入するNPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会と韓国の財団法人釜山(プサン)文化財団が２０１６年３月にユネスコに共同申請していました。

本件の正式名称は「朝鮮通信使に関する記録：１７世紀～１９世紀の日韓間の平和構築と文化交流の歴史」で、その価値については「両国の歴史的経験に裏付けられた平和的・知的遺産であり、恒久的な平和共存関係と異文化尊重を志向する人類共通の課題を解決するものとして、顕著で普遍的な価値を有している」と説明されています。

２０１７年１０月３１日、その価値が認められ、ユネスコ「世界の記憶」への登録が決定しました。そのうち、外交記録は５件５１点、旅程の記録は６５件１３６点、文化交流の記録は４１件１４６点となっています。

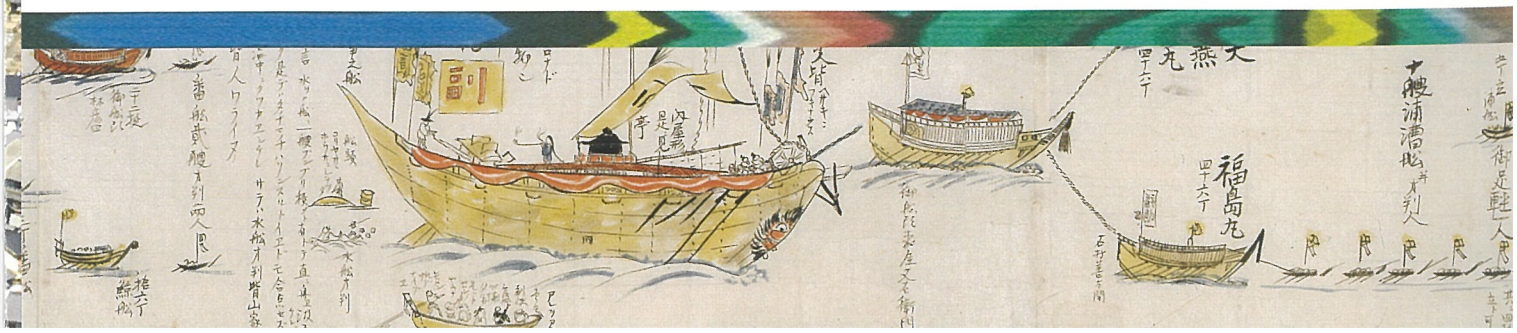
福山市所在のユネスコ「世界の記憶」登録資料（1件6点）

福禅寺（鞆町）所蔵資料１件６点が「朝鮮通信使に関する記録」の文化交流の記録として、ユネスコ「世界の記憶」に登録されました。

(1)「日東第一形勝」額字

鞆の浦の景色は、歴代の通信使に賞賛されていましたが、最も有名なのが１７１１年の従事官の李邦彦(イバンオン)が残した「日東第一形勝」の言葉です。この書は朝鮮国内でも有名となり、対潮楼は通信使たちの憧れの場所となりました。

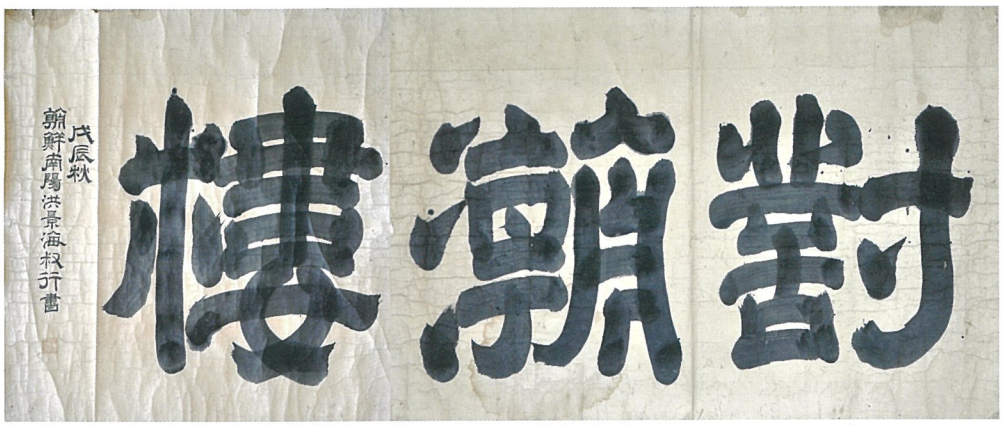
福山藩や江戸時代の漢詩人で廉塾（神辺町）の創始者である菅茶山により、本書の木扁額が作成され、今も対潮楼に掲げられています。



（2）「対潮楼」額字

１７４８年、正使の洪啓禧（ホンゲヒ）が福禅寺に宿泊した際に客殿を「対潮楼」と命名し、書家であった子の洪景海（ホンキョンヘ）が揮毫（きごう）したものです。

福山藩主阿部正福（まさよし）が本書を木扁額にし福禅寺に贈ったものが、今も対潮楼に掲げられています。



（3）朝鮮通信使正使　趙泰億（チョテオク）詩書

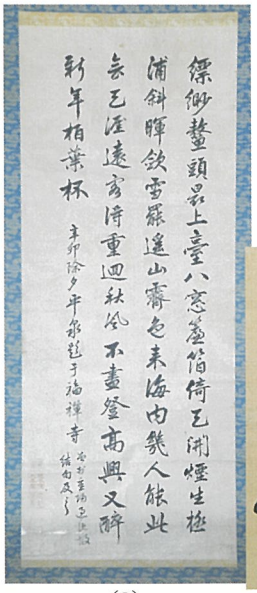
１７１１年の通信使正使の趙泰億（チョテオク）が、福禅寺で揮毫（きごう）した自作の漢詩七言律詩。これらの漢詩には、対潮楼からの眺望の素晴らしさや、そこでの酒宴の様子などが詠われています。

（4）朝鮮通信使副使　任守幹（イムスガン）詩書

１７１１年の通信使副使の任守幹（イムスガン）が、福禅寺で揮毫（きごう）した自作の漢詩七言律詩。

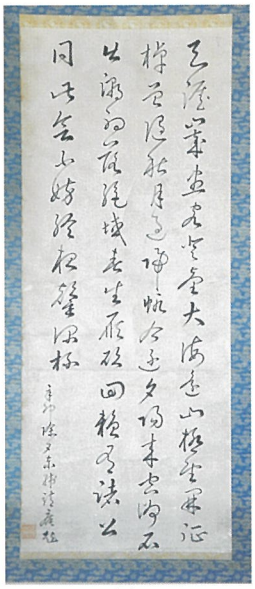
（5）朝鮮通信使従事官　李邦彦（イバンオン）詩書

１７１１年の通信使従事官の李邦彦（イバンオン）が、福禅寺で揮毫（きごう）した自作の漢詩七言律詩。

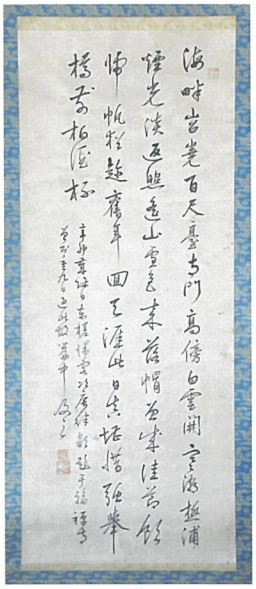


（3）

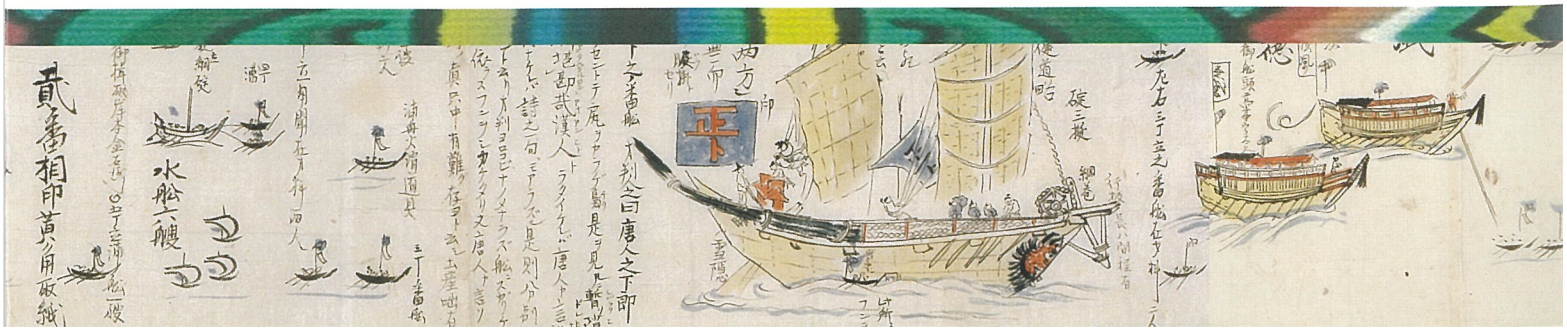
趙泰億像（1711年 狩野常信作）
（韓国側登録資料 韓国・国立中央博物館所蔵）



（4）



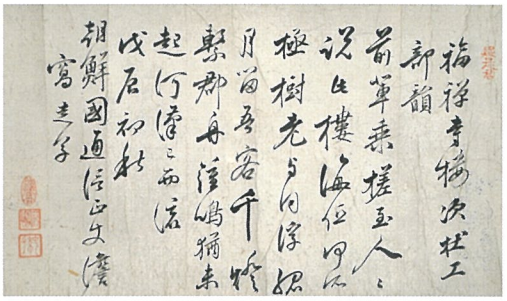
（5）



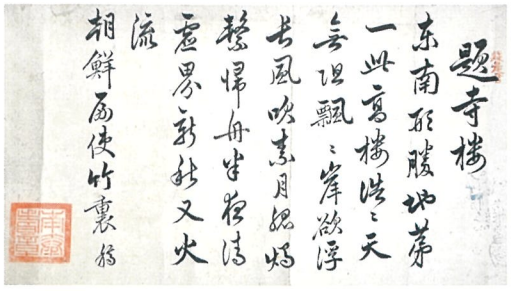
（6）韓客詞花

１７４８年、通信使一行９人が揮毫（きごう）した漢詩を福山藩主阿部正福（まさよし）が巻子一巻に仕立て、「韓客詞花（かんきゃくしか）」と名付けたものです。

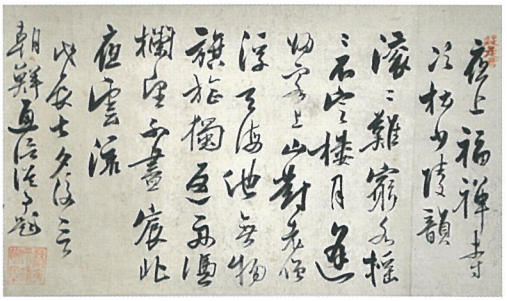
①福禅寺楼次杜工部韻（正使　洪啓禧（ホンゲヒ））



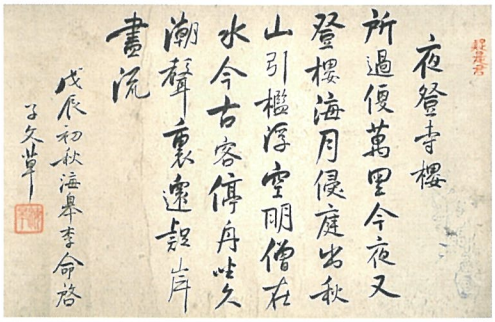
②題寺楼（副使　南泰耆（ナムテギ））



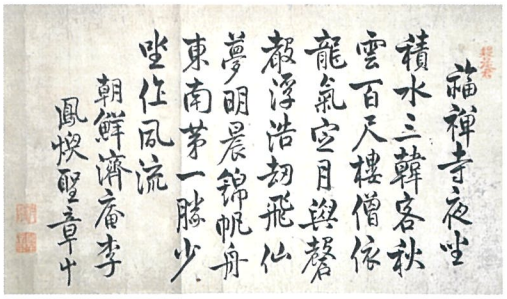
③夜上福禅寺次杜少陵韻（従事官　曺命采（ジョミョンチェ））



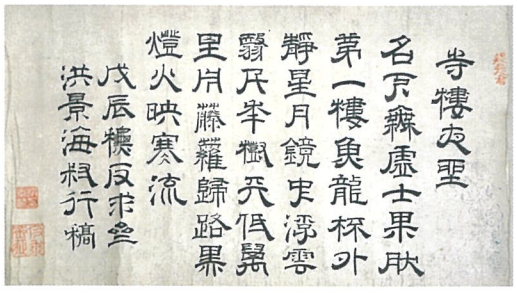
④夜登寺楼（書記　李命啓（イミョンゲ））



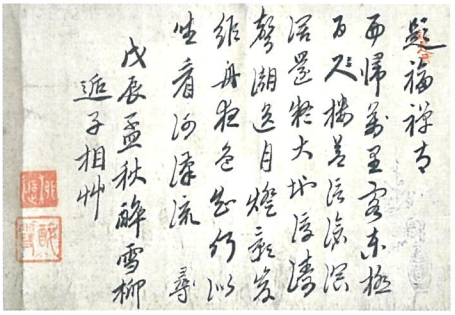
⑤福禅寺夜坐（書記　李鳳煥（イボンワン））

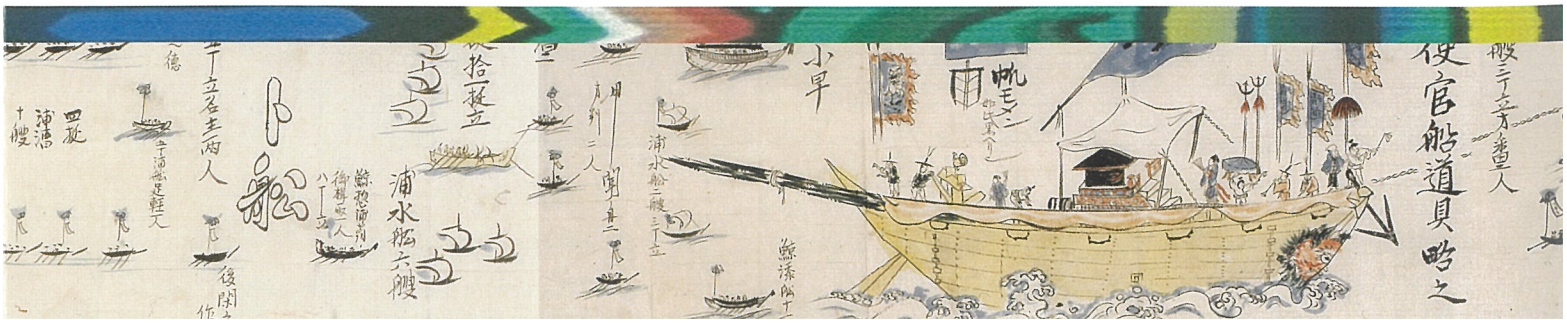


⑥寺楼夜坐（子弟軍官　洪景海（ホンキョンヘ））

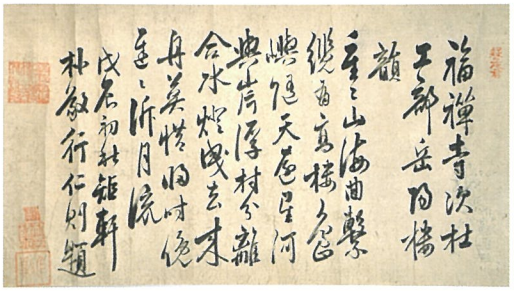


⑦題福禅寺（書記　柳逅（リュウフ））

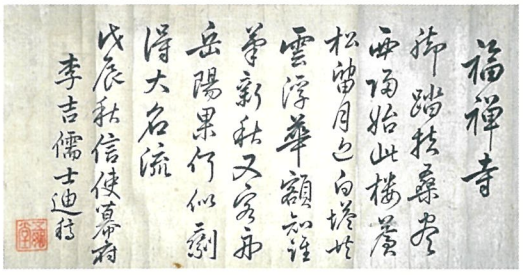




⑧福禅寺次杜工部岳陽楼韻（製述官　朴敬行（パクキョンヘ））



⑨福禅寺（名武軍官　李吉儒（イギリョウ））



これまでの朝鮮通信使に関する取組

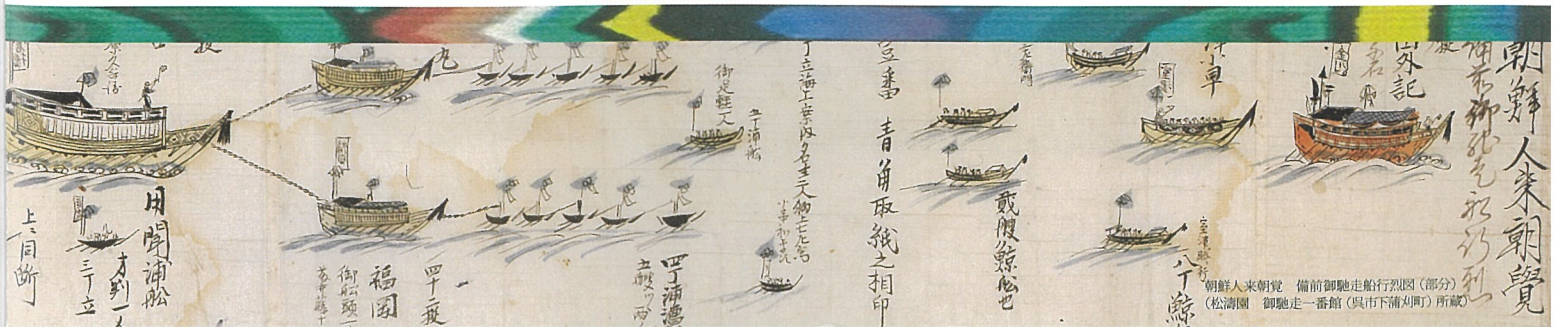
※特別展は福山市鞆の浦歴史民俗資料館主催

年　月	取　組　内　容
1940年　2月	福禅寺境内を広島県史跡「鞆朝鮮信使宿館跡(鞆対潮楼)」に指定。
1979年　1月	韓国・浦項市と親善友好都市提携。
1990年　7月	特別展「朝鮮通信使と福山藩港・鞆の津」開催。
1990年 12月	鞆対潮楼の保存修理を開始。(1992年3月に完了)
1991年　7月	特別展「福禅寺・対潮楼秘宝展」開催。
1994年 10月	福禅寺境内を国史跡「朝鮮通信使遺跡鞆福禅寺境内」に指定。(2007年に追加指定)
1995年 11月	朝鮮通信使縁地連絡協議会(縁地連)の設立に参加。
1997年 11月	第3回朝鮮通信使縁地連絡協議会福山大会を開催。特別展「朝鮮通信使行列と瀬戸内」開催。
1997年 12月	福禅寺本堂の保存修理を開始。(2000年5月に完了)
2003年　3月	古文書、文献調査記録集「朝鮮通信使と福山藩・鞆の津　その2(正徳～文化度)」発刊。
2004年　3月	古文書、文献調査記録集「朝鮮通信使と福山藩・鞆の津　その1(慶長～天和)」発刊。
2010年 10月	21世紀の朝鮮通信使　日韓トップ囲碁対局・鞆を開催。以後、毎年実施し朝鮮通信使の魅力発信と日韓交流を行っている。
2011年 10月	特別展「朝鮮通信使の文化的影響と日本人の文雅」開催。
2011年 11月	日東第一形勝300周年記念　21世紀の朝鮮通信使行列イベント開催。
2013年 10月	特別展「善隣友好　朝鮮通信使ー鞆の浦　新たなる発見ー」開催。
2015年　3月	福禅寺所蔵史料27点、市所蔵史料1点を市重要文化財「福禅寺対潮楼朝鮮通信使関係史料」に指定。
2016年　3月	「朝鮮通信使に関する記録」をユネスコ「世界の記憶」に日韓共同申請。
2017年　3月	第23回朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流福山大会を開催。
2017年 10月	「朝鮮通信使に関する記録」がユネスコ「世界の記憶」に登録される。特別展「朝鮮通信使が見た鞆の浦ー世界記憶遺産登録を目指してー」開催。
2017年 11月	福禅寺対潮楼でユネスコ「世界の記憶」登録祝賀会を開催。

朝鮮通信使船出迎え（2011年）

朝鮮通信使行列（2011年）

日韓トップ囲碁対局・鞆（2013年）



朝鮮人来朝覚　備前御馳走船行烈図（部分）
（松濤園　御馳走一番館（呉市下蒲刈町）所蔵）

鞆の浦にある朝鮮通信使ゆかりの地

❶ 福禅寺対潮楼（国史跡）

福禅寺は、元禄年間（１６８８年～１７０３年）に建立された客殿（対潮楼）が朝鮮通信使の迎賓館として使用されました。

墨書「日東第一形勝」誕生の舞台となり、対潮楼には、その扁額が二額掲げられています。その内の一額は菅茶山が、「広く人々に見てもらいたい」と木版刷りのできる扁額に仕立てたものです。この他、茶山の意向を受けて、通信使が詠んだ漢詩の木版が数多く制作され、今も客殿に掲げられています。

❷ 磐台寺観音堂（国重文）

磐台寺観音堂（阿伏兎観音）は、瀬戸内海を航海する朝鮮通信使にとって、灯台の役割を果たしており、鞆へ向かうための目印になっていました。観音堂の僧が航海する朝鮮通信使に鐘を鳴らして海上安全を祈り、通信使はそのお返しに米や賽銭などを贈ったことや断崖絶壁に建つその奇景に感嘆した様子を記録に残しています。

❸ 沈惟敬の石碑

「備後鞆之図」（部分）
（福山市鞆の浦歴史民俗資料館所蔵）

鞆の弁天島には、沈惟敬にまつわると伝わる高さ260㎝もの石碑があります。沈惟敬は明（中国）の高官で、豊臣秀吉が朝鮮および明の侵略を目指した文禄の役で、日本との和議のために明側の講和交渉副使として１５９６年に日本を訪れ、その帰路に鞆の浦へ寄港しています。最終的にこの講和は成立しませんでしたが、沈惟敬の来日は江戸時代の朝鮮通信使への礎のひとつになったと考えられます。

❹ 円福寺「南林山」の木扁額

江戸時代、円福寺は瀬戸内の多島美が眺望できる景勝地として漢詩会など文化交流の舞台になりました。

１７１１年の第８回朝鮮通信使では写字官、花菴が円福寺の山号「南林山」の大書を揮毫し、その端には「朝鮮国花菴書」とあります。現在、当時の作品は残されていませんが、木扁額として仕立てたものが本堂の正面に掲げられ、朝鮮通信使との文化交流を今に伝えています。

❺ 南禅坊本堂・山門（国登録有形文化財）

鞆へ寄港した朝鮮通信使は、当時、多くの寺院へ宿泊しました。南禅坊もそのひとつで、菅茶山著『福山志料』には、１７４８年に朝鮮通信使が宿泊したことが記されています。

山門は、１８１１年の第１２回朝鮮通信使を迎えるため、上層の鐘楼を増築したと推察されています。しかし、対馬までしか訪れず、この派遣が最後となったため、残念ながらこの山門を通信使が通ることはありませんでした。

❻太田家住宅（国重文）と保命酒

保命酒は江戸時代から今に伝わる鞆の名産品で、朝鮮通信使も愛飲していました。そして、「黄色に輝く長寿の酒」など称賛の漢詩を残しています。

通信使をもてなした保命酒の醸造場は、太田家住宅として今も大切に残されています。

❼ 鞆城跡（市史跡）

１６０９年の朝鮮通信使の記録に、「岸の上に新しく石城を築き、将来防備する砦のようであるが、未完成である」とあります。そして、元和年間（１６１５年～１６２４年）には、鞆城が取り壊されていることを記しています。

❽仙酔島

朝鮮通信使の記録に「猿山」という名称で登場します。当時、朝鮮では猿が縁起物とされ、その猿が多く住んでいるという話を聞き、このように呼んでいます。南禅坊山門の鬼瓦には、姿の異なる猿が彫刻されていますが、実際に猿はいなかったようで、「猿がいないのに猿山という名をもっている」と疑問を呈している記録もあります。

編集・発行：福山市経済環境局文化観光振興部文化振興課
〒720−8501 福山市東桜町３番５号　TEL：(084)928−1278　FAX：(084)928−1736
E−mail：bunkazai@city.fukuyama.hiroshima.jp

2020.03.5000